

AMD Aの主な活動

- 1984年8月 アジア医師連絡協議会 (AMD A) 設立
- 1988年8月 インド無医村巡回診療プロジェクト
- 1991年11月 アジア多国籍医師団構想を決定
- ◆緊急支援 フィリピン (火山噴火)
- 1992年1月 AMD Aネパールクリニック開所
- ◆緊急支援 バングラデシュ (ミャンマー難民) ネパール (ブータン難民) カンボジア (難民帰還) インドネシア (地震)
- 1993年
- ◆緊急支援 ソマリア (難民) バングラデシュ (サイクロン) ネパール、バングラデシュ (洪水) インド (地震)
- 1994年10月 「おかやま国際貢献NGOサミット」開催
- ◆緊急支援 モザンビーク (難民帰還) カンボジア (洪水) ルワンダ (難民)
- 1995年
- ◆緊急支援 兵庫県 (阪神淡路大震災) チェチェン (難民) サハリン (地震) タイ (同) メキシコ (同) インドネシア (同) フィリピン (台風)
- 1996年
- ◆緊急支援 インドネシア (地震) 中国四川省 (雪害) 中国新疆ウイグル自治区 (地震) レバノン (内戦) バングラデシュ (畜害) 中国貴州省 (洪水) ケニア (赤痢) インド (サイクロン)
- 1997年12月 AMD Aカンボジアクリニック開所
- ◆緊急支援 福井県 (タンカー重油流出事故) マレーシア (洪水) イラン (地震) バングラデシュ (サイクロン) イラン (地震) インドネシア (同) インド (サイクロン) ベトナム (台風) カンボジア (火災) ソマリア (洪水)
- 1998年
- ◆緊急支援 中国河北省 (地震) アフガニスタン (同) ボリビア (同) ロシア (洪水) インド (サイクロン) パプアニューギニア (津波) バングラデシュ (洪水) 中米 (ハリケーン)
- 1999年2月 アフガニスタンのワクチン停戦調印式
- ◆緊急支援 コロンビア (地震) アルバニア、ユーゴスラビア (コンボ難民) マレーシア (感染症) トルコ (地震) 東ティモール (避難民) 台湾 (地震) インド (サイクロン) ベトナム (洪水) トルコ (地震) ベネズエラ (洪水)
- 2000年
- ◆緊急支援 モザンビーク (洪水) カンボジア (水害) ミャンマー (洪水)
- 2001年
- ◆緊急支援 エルサルバドル (地震) インド (同) ミャンマー (洪水) 米国 (同時多発テロ) パキスタン (アフガン難民)
- 2002年2月 ネパール子ども病院篠原記念小児棟開所
- 11月 AMD A「魂と医療」のプログラム開始
- ◆緊急支援 コンゴ (火山噴火) インドネシア (洪水)
- 2003年
- ◆緊急支援 中国新疆ウイグル自治区 (地震) ケニア (洪水) アルジェリア (地震) バングラデシュ (洪水) スリランカ (同) イラン (地震)
- 2004年
- ◆緊急支援 バングラデシュ (洪水) 玉野市 (高潮災害) ハイチ (洪水) スーダン・ダルフール (紛争) インドネシア (地震) 新潟県 (中越地震) インドネシア、スリランカ (同) 日本 (新潟中越地震)

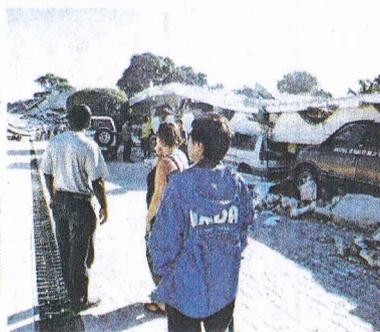
救援と復興 どこへでも



台風被害を受けたフィリピン・バナイ島での医療支援活動
■2013年11月21日 (AMD A提供)



緊急医療支援の活動費に充てるため、街頭で募金活動を行うAMD Aメンバー=今年1月、岡山市北区本町



建物が倒壊したハイチの首都ポルトープランス付近で情報収集するAMD Aメンバー=2010年1月18日 (AMD A提供)

「AMD A」は1984年8月、開業医だった菅波茂AMD Aグループ代表(67)が設立した「アジア医師連絡協議会」(The Association of Medical Doctors of Asia)が始まり。その頭文字を取って、2001年のNPO法人化を機に、正式名称となった。

当初はインドの無医村での診療活動を中心に展開。1990年代から被災地などで緊急救援を始め、生死を分ける境とされる災害発生後72時間以内に医師や看護師らによる医療支援チームを派遣する。

緊急救援が終了した後は現地の要請に従って、復興にも携わる。中長期のプロジェクトがそれで、平和構築▽生活水準の向上▽教育支援▽健康増進を4本柱に、多国籍医師団の編成や農業支援、奨学金の提供、巡回診療など多様な事業を展開している。

AMD Aの強みは地道に築いたネットワーク。多くの事業を取り仕切るAMD A本部の常駐スタッフは15人ほどだが、緊急時に協力するボランティアの医師や看護師らは国内に約500人、海外にも1500人以上登録しており、機動的な活動を支えている。

1面から続く

アジアで新事業模索

海外では被災地に近い支部を中心に、現地のNGOなどと連携。昨年11月、台風30号で甚大な被害が出たフィリピンでは軍とパートナーシップを取った。

「最も大切なのは持続性だ」と菅波代表。継続性を担保する一つが岡山県が定めた条例だ。2004年、全国の都道府県初の国際貢献条例を制定。県、市町村、県民、国際貢献組織が協働して災害時の救援や途上国の自立支援に取り組むことを定め、国際貢献を養う土壌をつくり出した。さらにAMD Aは、大学、行政、医療機関などと連携協定を締結。より迅速で、効果的な活動の基盤を固めている。

こうした「実動部隊」を支えているのは、県民の善意だ。継続的な寄付に加え、災害発生時には街頭で募金を呼び掛け、活動費に充てる。「人の役に立ちたい」という誰もが持つ思いを託され、活動が成り立っている」。成澤貴子理事長(56)は力を込める。

AMD Aは今年、新たな挑戦を始めた。7月、日本人職員が駐在する初の海外事務所をマレーシアのクアラランブルに開設。アジア各国への交通の便がよい拠点性を生かし、新たな事業の展開を模索する。成澤理事長は「アジアをフィールドに、次世代の人材育成にも取り組み、社会貢献を続けたい」と話す。

